

## Case Study

No.01

Customer Success

ブリヂストン化工品ジャパン株式会社 様

## 最小限のリードタイムで海外支店のニーズに応えた クラウド勤怠管理システム「タイムカードEX」



ブリヂストン製の産業/建設資材を販売するブリヂストン化工品ジャパン株式会社は、韓国および台湾に支店を有している。ガバナンス向上の観点から、勤怠管理体制の強化をめざすことになり、新システムの導入を検討。その結果、同社は企画から

稼働まで最小限のリードタイムでの実現が可能だった株式会社ナルボのクラウド勤怠管理システム「タイムカードEX」を採用した。

これにより、日本国内拠点向けに展開していた既存システムを活用するよりはるかにコストを抑えた導入が実現。また、月半ばでもリアルタイムで勤務状況の把握が可能になり、国内の労務管理と同等の基準でガバナンスが向上した。

今後、同社は「タイムカードEX」の経費精算機能や時間配賦機能などの活用で、さらに迅速かつきめの細かい勤怠管理体制の確立を構想している。

### ブリヂストン製の産業/建設資材販売で、 アジアに2つの海外拠点を展開

高い品質を誇るブリヂストンのゴム製品や樹脂製品をもとに生産された産業資材、建設資材、それらを販売するのがブリヂストン化工品ジャパン株式会社である。

同社は韓国と台湾に支店を持つ。ともに日本国内と違って専用回線ネットワークが敷設されておらず、数名の営業マンが在籍する拠点だ。そこでの勤怠管理は、タイムカードと帳票をベースとし、日本本社への報告は月次で行われていた。そこでの課題は就労状況のリアルタイムな確認だった。そこで、労務管理を日本国内と同等レベルで実施するため、同社は勤怠管理システムの導入を決断した。2015年晩夏のことである。

### 専用回線で日本国内とネットワークを結ばず クラウドサービス導入を模索

実は、日本国内の拠点向けには自社開発の勤怠管理システムがすでに存在した。当初は、この国内向けの勤怠管理システムを展開するという案が上がった。しかし、これを海外へ展開するには、時差

や言語対応などでカスタマイズを施す必要がある。また、専用回線を敷設するにはコストもかかれ、開通までに時間も要する。

本システムは、経営方針としてガバナンス強化のため迅速な稼働が厳命されていた。それに加えて、今回はシステム構築コストを安価に抑えるというのも重要だった。事業環境の変化が加速するなか、コストをかけ長大なシステムを開発しても、稼働時に要件が満たされている保証はない。

そこで考えたのが、クラウド勤怠管理システムの採用である。クラウドであれば導入が速く、支払いは利用料ベースであるためコストも抑えられる。さらにいえば、今後ユーザー数が増えても柔軟に対応可能だ。ブリヂストン化工品ジャパン株式会社 総務・IT本部 情報システム部長 上原剛氏は、さっそくこれまで取り引きのあるベンダーやシステムインテグレータを中心にシステム提案を求めた。

### クラウドながら柔軟な対応が可能だった 「タイムカードEX」を選択

その中の一つに、株式会社ナルボのクラウド勤怠管理システム「タイムカードEX」があった。同社はナルボのグループウェア「ワーク

#### ユーザープロフィール

## BRIDGESTONE ブリヂストン化工品ジャパン株式会社

ブリヂストングループの一翼を担うブリヂストン化工品ジャパン株式会社。同社が専門としているのは「化工品」と呼ばれる分野だ。コンベヤベルトや建設機械などの油圧ホースといった産業資材、樹脂配管材料やユニットバスといった建築資材などを販売している。ブリヂストンが長年培ってきた信頼と技術は、同社でも脈々と受け継がれており、日本を代表する名だたる企業から高い信頼を寄せられている。

社名：ブリヂストン化工品ジャパン株式会社  
所在地：東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル B-4 階  
資本金：400 百万円  
創業：1962 年 5 月 1 日  
設立：2015 年 1 月 1 日  
従業員数：917 名 (2016 年 4 月現在)  
事業概要：(株)ブリヂストン製の産業資材 (コンベヤベルト・油圧等各種ホース)、建築資材 [建築免震・ユニットバス・ブッシュマスター (樹脂配管) 他] の販売・施工  
URL：<http://www.bridgestone-dpj.co.jp/>

フローEX」をリリースまもなくから導入しており、勤怠管理分野でシリーズ製品があるのを知っていたのである。

それと時を同じくして、システム商社経由で候補システム2つが挙がってきた。合計3つの候補システムを比較検討した結果、上原氏は「タイムカードEX」を選んだ。その理由を同氏は次のように語る。

「月額コストが安価であることは大前提でしたが、それと同じぐらい時差や言語対応は重要な要件でした。時間を厳密に記録・管理できないと勤怠管理として意味がありません。また、営業担当者が訪問先を入力するときには、地名や固有名詞が頻繁に登場します。「タイムカードEX」はそれが可能でした。

また、早い段階で当社に端末を持ちこんでデモを披露してくれました。「ワークフローEX」を利用していただかれわれにとってなじみある操作性で、これなら当社内で設定作業を行って、韓国支店、台湾支店に展開できるという確信が持てました」

さらに、「ワークフローEX」導入の際、基幹システムとの連携部分を開発したのはナルボだった。同社のシステム体系にナルボが通じているという安心感も、今回の選択を後押ししたという。完成品システムであるクラウドサービスとはいえ、まったく知らないベンダーからの提供には若干のリスクを感じていたからである。他の候補システムはデモを見る機会がなかったこともあり、上原氏の決断は「タイムカードEX」で固まった。

## 既存システム活用に比べ、 はるかにコストを抑えた導入が実現

2015年秋にはナルボ側でカスタマイズを完了。同年12月、情報システム部での試用が始まった。その間に両支店長へのシステム説明を終えて、2016年1月からは当初の予定どおり本番稼働に入った。

2016年8月現在、どちらの支店においてもICカードタッチによる勤怠管理が定着した。これにより、勤務者にはタイムカードと変わらない簡便さを提供しながら、管理する側でも正確な出勤データをリアルタイムに把握することが可能になっている。

導入から半年、その効果を上原氏は次のように語る。

「まずは、非常にコストパフォーマンス高く導入できたことを喜んでいます。1ユーザー月額300円ですから、海外拠点でシステム構築したり、日本まで専用回線を敷設するのに比べて、はるかに安価なコストでスタートすることができました。当社の場合、海外支店のユーザー数が少ないため、よりメリットを享受しやすいという側面がありました。しかも本番稼働までが速かった。ほとんどカスタマイズを施さずにすみ、「企画から稼働まで最小限のリードタイムで実現させる」という当初の目的を果たすことができました」

また、ガバナンス強化という点でも、そのレベルは大きく向上した。現在は、月の半ばであっても社員の勤務状況がいつでも把握可能だ。たとえば、残業時間が急激に増加している社員がいるとする。そういったときも、すぐさまその時点での作業負荷について支店長や本人に尋ねたり、それ以上残業時間が増えれば規定に抵触する旨

を伝えることができる。日本本社側でリアルタイムにアクションを起こせるようになったのだ。これは、国内の労務管理と同等の基準を海外支店まで波及させることができたという点で非常に意味が大きいという。

これによって、ブリヂストン化工品ジャパンとして全体でガバナンスのベクトルを合わせる第一歩を踏み出せたからだ。

さらに、これはナルボ製品ならではの機能なのだが、「タイムカードEX」には承認機能が存在する。社員から上がってきた休日や早退などの申請に、上長がシステム上で承認できるというものだ。これによって上長は迅速に社員の勤務状況を把握できるとともに、日本本社側でも現場の社員管理がうまく回っているかチェック可能だ。労務管理のリードタイムそのものの短縮と透明化という点でも、新システムは大きく寄与している。

## 次なるテーマは経費精算機能や 時間配賦機能の活用

2つの海外支店において、勤怠管理の次なるテーマは「タイムカードEX」による経費申請/精算と日報入力の実現である。今回このサービスを選択した遠因には、こうした機能があり、将来的にこれらを使ってそこまで踏み込んだ管理をめざそうと考えたこともある。現在は、経費申請と日報がまったく別々にレポートされるため、支店長は双方の情報突き合わせや承認に多くの時間を割かねばならないという。

それが「タイムカードEX」上で一つになることによって、管理工数大幅に削減できると両支店長から期待されている。

また上原氏は、「タイムカードEX」が持つ時間配賦管理機能にも着目している。これは、社員の日々の活動がどの業務にひもづいたのかを管理できるというもの。これを利用して、たとえば、8時間の就業時間のうち、どの業務に時間を費やしたか、業務分析のための時間集計データが取得できる。そして分析の結果、「労力のかかっている商品が販売増加につながっているか、などといった次のアクションに移れるのだ。すでに情報システム部内ではこの機能を活用しており、部員の作業工数調整に役立てているという。

長期的には、このシステムを日本国内で提供する構想もある。というのも、一日の大半を取引先や現場で過ごすため、勤怠管理システムにアクセスできない社員が存在するからだ。そうした彼らに、Webブラウザさえあればセキュアにアクセスできる「タイムカードEX」が適していると上原氏は考えている。

「ワークフローEX」は用途限定で導入したが、今ではなくてはならないインフラになったという上原氏。同社のニーズをきちんと酌んでいる「タイムカードEX」もまた、同じ道を歩むことになるかもしれない。

【ご対応いただいた方】



ブリヂストン化工品ジャパン株式会社  
総務・IT本部 情報システム部長  
上原 剛氏

お問い合わせ先

LABORATORY FOR KNOWLEDGE  
**Know/bo**

株式会社ナルボ

<http://www.knowlbo.co.jp/>

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-10-4 越山LKビル2F